

おおもとウィメンズクリニックレター Vol.13 13周年記念版



14年目に思うこと

院長 大本裕之

産婦人科を専門とした理由の一つは、周産期医学が発展し始めた時期であり、母児管理のもとに出産に関われることと同時に子宮頸癌を頂点とした手術ができることでした。幸い、良き師、仲間と良い病院・環境に恵まれ、やり甲斐を持って一心に診療できたことで私のファーストキャリアは恵まれていました。外科系の医師はメスを置くときが必ず来ます。私の場合は開業がそのときでしたが、あっという間に13年たちました。不器用な私のキャリアチェンジ、セカンドキャリアは小児期・思春期・性成熟期・更年期・老年期と連続したライフサイクルを対象とした「女性医学」に光が差し、当院のような診療所においてまさに貢献できる産婦人科領域があったことが幸いでした。①産科②婦人科腫瘍③生殖内分泌は個別化専門性が高くなり、各分野を総合的に支えているのが女性医学であり、私のファーストキャリアも診療に活かされています。しかし、技術も知識もすぐに陳腐化します。研究会、学会参加、専門医の継続、新たな認定医試験など日々研鑽しながら、患者様のお役に立ちたいと思っています。いつか来る引退の日まで、生涯現役を目指して参ります。これからもよろしくお願ひ致します。

14年目を迎えて

副院長 大本佳恵

早いもので、2月5日でクリニックは開院14年目を迎えました。そして私事です、私も人生100年と言われる中でちょうど折り返し地点に来ました。よく考えれば50年のうち半分以上は医師としての人生を歩んで来たのかと思うと、大変感慨深いものがあります。どれだけ患者様との出会いや別れ、たくさんの命の誕生に立ち会わせてもらったか、次々と思い浮かばれてきます。

その中で私も母になり家庭、育児と両立できる範囲で医療に従事してきましたが、もれなく自分自身の体調不良にも襲われ、多くの方々にご迷惑をかける事となり大変申し訳なく、情けない気持ちでいっぱいです。でもそれでも「私の顔を見たら元気が出る」「笑顔で座っているだけでいいから」など、私への励ましのお言葉をもらうことが多くなりました。

今年は皆様への恩返しに今まで以上に出来るよう、体調面には気を付けながら患者様に寄り添える診療に努めたいと思います。

福山市ばらモデル花壇 認定継続中

2019年5月には四国高松から大型観光バスでクリニックのばらを見学に来て頂きました。

2020年は福山市明るいまちづくり協議会主催のばら花壇コンクールエントリーの年です。春を楽しみにばらの育成に励みます。



〒720-0832 福山市水呑町 444-7

TEL: 084-920-5155

<http://ohwc.jp>

2019年度 クリニックのデータ

2019年は新規登録患者様 600人、のべ 9415人の患者様に来院いただきました。新規登録患者様数は例年同様に受診理由の多くは“ロコミ”でした。クリニックネットワークが定着してきたことを嬉しく思います。子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍など良性疾患の多くは倉敷成人病センター様の腹腔鏡下手術により患者様のQOLを保ちながら治療がなされました。悪性疾患は福山医療センター、福山市民病院、中国中央病院、倉敷成人病センター様などと病診連携をはかり子宮頸部上皮内腫瘍；高度異形成 18名および上皮内癌 2名、子宮頸癌 2名、子宮体癌 4名の患者さまが適切な医療を受けることが出来ました。子宮頸癌はワクチンによる一次予防、検診による二次予防が大切ですが啓蒙は不十分です。子宮体癌は増加していることが特徴的でした。引き続き、啓蒙と子宮ファイバースコープ検査など検査体制を充実させて参ります。不妊症に対しては子宮卵管造影検査を 20名に行い、排卵誘発、タイミング法、人工授精までしか扱っていませんが、ストレスが大きかからないような診療に配慮しています。高度生殖補助医療は指定医療機関様と連携を図り、よい成績を収めています。LEP製剤（低用量エストロゲン・プロゲステン配合薬：月経困難症治療薬およびピル）は月平均 368シート処方ですが昨年より増加しています。他の選択肢としてディナゲスト処方、ミレーナ挿入も増加し、女性の生活改善に役立っています。血栓症に対しては厚生労働省、学会の注意に従って適正使用を行い、下肢静脈エコーの充実と院内で末梢血、d-dimer 測定が可能です。代替医療としてのアロマセラピー・エステは現在休止しています。



スタッフより

看護師

今年はオリンピック year ですね。どんな感動が待っているかわくわくします。趣味のプロ野球観戦も 1年楽しむつもりです。感動や楽しむ気持ちは心に潤いを与えてくれます。心もお肌も潤いをもち、今年も励んでいこうと思います。

看護師

令和元年に私自身勤続 10周年を迎え身の引き締まる思いです。今年は原点に戻り、自分を見つめ直す一年にしようと、【脚下照顧】（自分の足下を見て自分のことをよく反省する）という言葉に胸に掲げました。また、自分の長所を見極め、これだけは負けないというものを追求し、切磋琢磨して今年も頑張っています。

看護師

他科の経験を経てクリニックの一員になりました。こちらでの幅広い女性医療の提供に驚いています。今までの経験も活かし、クリニックの理念

“女性のためのホームドクター” “女性に寄り添う医療” をモットーに、一人一人の患者様と大切に向き合い、くつろげる場を作り、お役に立てるように一生懸命努めて参ります、よろしくお願い致します。

医療事務

今年はずいぶん東京オリンピック開催の年ですね。招致の際、滝川クリステルさんがスピーチでおっしゃっていた『おもてなし』の心を持って、患者様と接していきたいです。本年もよろしくお願い致します。

医療事務

不安を抱えて来院される患者様に安心していただけるように、一人でも多くの患者様の健康に役立つことができるように、この婦人科を選んで良かったと思っていただけるように、今年も微力ながら頑張ります。